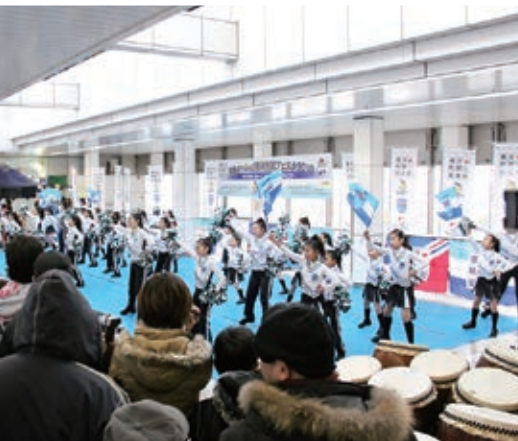


特集 横浜熱闘倶楽部 20周年特別企画

横浜プロスポーツチーム

横浜熱闘倶楽部 担当者 座談会



協力●横浜熱闘倶楽部●横浜DeNAベイスターズ●横浜F・マリノス●横浜FC●横浜ビー・コルセアーズ 進行●黒木 誠一(横浜熱闘倶楽部事務局)/進行・構成●関 英明

競技の垣根を越えて

—— 皆さんそれぞれ地域など様々なつながりを持ってお仕事をされていると思います。その中での横浜熱闘倶楽部(以下、熱闘倶楽部)の位置づけや、熱闘倶楽部についてどのような印象を持っているかをまずお聞かせください。

畠山 だいぶ昔、当時はまだ3チームで、3チームが揃って勝った時に賞品がもらえる、その

記憶があります。今回熱闘倶楽部担当として、横浜のプロスポーツ4チームとして何かもう少し面白いもの、いいことができないかなと思っています。簡単に言いますと、熱闘倶楽部や球団として、横浜市民、子どもたちにどれだけ貢献できるかがメインになるのかなと思っています。

門脇 実はF・マリノスへ入社する前に熱闘倶楽部を知って、ベイスターズと横浜FCとF・マリノス…当時まだビーコルは入っていなかったの

で、横浜のプロスポーツチームが競技の垣根を越えて一緒になって活動するという素晴らしい取り組みがあることに衝撃を受けました。地域の方々からも「他のチームと連携しているのはいい活動だね」と言っていたり、改めて横浜熱闘倶楽部の良さを実感していますので、この取り組みをさらに発展させていくことができればいいですね。

松本 熱闘倶楽部は横浜という大都市の中で

横浜熱闘倶楽部20年の歴史

1995年 平成7年	横浜熱闘倶楽部設立 設立記念イベント 横浜フレンドリーマッチ(横浜マリノスvs横浜フリューゲルス)のエキシビジョンマッチ開催 「横浜熱闘V3デー」Tシャツプレゼント(平成10年まで)3チームが揃って勝利した日に抽選で熱闘倶楽部オリジナルTシャツをプレゼント	1999年 平成11年	横浜フリューゲルス、第78回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝 横浜マリノスが横浜フリューゲルスの吸収合併により「横浜F・マリノス」へ	2005年 平成17年	新潟県中越地震被災地救援義援金募金活動に、3チームの選手・スタッフに参加 横浜市小学校教諭を対象にサッカー講習会開始 ①
1996年 平成8年	横浜マリノス J1リーグ 1stステージ優勝・年間王者 横浜マリノスV1パレード及びV1記念市民パーティを共催 新春対談 高秀市長・駒田徳広選手(ベイスターズ)・井原正巳選手(マリノス)・前園真聖選手(フリューゲルス)が平成8年の抱負を語る	2000年 平成12年	横浜F・マリノス J1 1stステージ優勝 横浜市庁舎三角塔に優勝懸垂幕を掲出、市民広間にて優勝カップや写真パネルを展示 熱闘フェスティバル初開催 主力選手の写真パネル展示やメッセージVTRの放映、チャリティーオークションなどを実施	2006年 平成18年	横浜FC J2リーグ優勝、同時にJ1リーグへ昇格 熱闘キャラバン隊の編成。子どもたちを対象に、多くの市民が集まるスポーツイベントや区民まつり等に各チームや各区とも連携してPR活動を実施
1997年 平成9年	市庁舎及び関内駅前三角塔への横断幕・懸垂幕掲出の開始 横浜熱闘倶楽部展 横浜市スポーツ情報センターでユニフォームやボールなどの展示、チームPRビデオの放映などを実施 横浜市民サッカーの日 マリノスとフリューゲルスのトップ選手を招き、サッカー教室やサイン会、記念撮影などのイベントを全区で開催	2001年 平成13年	横浜F・マリノス J1リーグヤマザナビスコカップ優勝	2007年 平成19年	翌年3月の市営地下鉄グリーンライン開業にあたり、利用キャンペーン企画にグッズを提供 日本サッカー協会主催「こころのプロジェクト」へ支援元日本代表選手やJ1リーガーが子どもたちと夢を持つことの大切さなどについて語り合う
1998年 平成10年	横浜ベイスターズ、前身の大洋ホエールズ以来38年ぶりの日本一 横浜フリューゲルス解散 2チーム体制へ	2002年 平成14年	横浜FC加入 3チーム体制へ 横浜F・マリノス J1リーグ 1stステージ・2ndステージ共に優勝 完全優勝記念パレードやセレモニー開催を支援 横浜熱闘倶楽部オリジナルステッカーを環境事業局(当時)ごみ収集車に貼付PR、G30(ゴミゼロ)事業に各チームがPR映像出演などで協力 「横浜スポーツ・レクリエーションフェスティバル」に協力開始	2008年 平成20年	開幕ダッシュ!横浜熱闘フェスタ2008開催 熱闘シャトルバス運行 ② 市営地下鉄「はまりん号」にチームキャラクター乗車 ベイスターズパナーの掲出(馬車道、ベイスターズ通りなど)
		2003年 平成15年	チケット半券割引事業「半券でGo!」観戦チケット半券を持って他チームの観戦に行く、チーム指定の当日券が割引価格で購入できる相互応援企画	2009年 平成21年	横浜F・マリノス「電動車椅子サッカー大会」初開催 横浜FCはもととカップ大会初開催 「ヨコハマ・ワールド・ウォーク」に協力開始 市庁舎前三角塔の懸垂幕リニューアル

プロスポーツ4チームを支援・応援する、そういうのは他都市に比べて極めて珍しい活動だと思うんです。ただその中で「どこまでどう広がって変化があったのか」を考えたとき、何がプロチームにとってやらなきゃいけないことか、行政は逆に何を支援しなきゃいけないのか、その辺をもっとこれから考えていくべきかなと思います。



北澤 私は2014年から熱闘倶楽部を担当しているのですが、チームに入った当時はあまり詳しく知りませんでした。担当となって、今まではチームからの目線…横浜FCとして最終的にどうやって来場者を増やしていくか、サポーターを増やしていくか…という目線から、この横浜市のプロスポーツ4チームと一緒に取り組むことによって、チームというよりは横浜市民、地域の人たちへの地域貢献という角度からも考えさせられるようなことがありました。そういう面でのアイディアというか、こういうこともできるんだ、みたいなものを自分の中で感じることができました。



全国ホームタウンサミット

小川 僕にとって印象深かったのは、横浜市開港記念会館で開催した「全国ホームタウンサミット」です。あれは非常にインパクトが強くて、ピーコルが熱闘倶楽部に仲間入りさせてもらってまだ間もないときのイベントでしたけど、参加で

きたのは非常に幸せだなと感じました。やはり首都圏である横浜にこのプロスポーツ4チームが同じ価値観を持って取り組むっていう姿勢は本当に素晴らしいことなんだと思いました。現場で運営に携わった我々も楽しかったです。

横浜の街で、活動するということ

—— せっかく横浜にプロスポーツ4チームがあるので、4チームで揃っているからこそこの「意味あるもの」をやっていかなければいけないと思います。皆さんそれぞれに印象に残っているイベントなどはありますか？



ヨコハマ・ワールド・ウォーク

畠山 「ヨコハマ・ワールド・ウォーク」ではうちのユニフォームを着ている人もいれば他の3チームのユニフォームを着て横浜の街をウォーキングしていた人が大勢いたのが印象に残りました。（※横浜プロスポーツ4チームのユニフォームを着て参加すると景品をプレゼントする「横浜熱闘倶楽部ユニフォームウォーキング」を実施）

小川 首都圏であるからこそ、熱しやすく冷めやすいみたいものは大いにあると思います。僕がすごいことだと感じているのは、ベイスターズが2015シーズンに約180万人を動員したこと。これがひとつのベースになるので、では他のチームも何をしたら人が集まってくるのか？というのを考えなくてはいけないと思います。子どもたちも少なくなっていく中で、「地域貢献って何？」ということをいちばん最初に振り返るんじゃないかなと思います。横浜には野球・サッカー・バスケットボールと選択肢がいっぱいある中では、未来ある子どもたちに向けた、何かもっとしっかりした型があるんだろうな、という感じはします。

—— 例えばバスケットボールでいうと、2016年からリーグが統合され、ピーコルは「B.LEAGUE」の1部としてスタートします。日本バスケットボール界の最高峰のカテゴリからスタートするというので、周りからのプレッシャーや期待も多いと思います。言い換えれば、そのプレッシャーや期待にうまく応えられれば、今まで以上に横浜の街にピーコルが根付くいい機会だと思うんです。

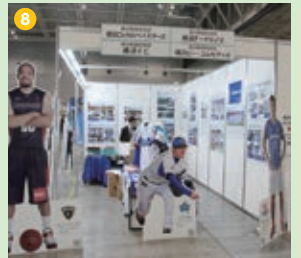


小川 やはり横浜というのはひとつのブランドですので、そのブランド力をどう高めていくか、ということだと思います。全国にいろんなチームがありますが、その中でも横浜というのはちょっと違うんです。イメージが。僕らとして横浜のブランド力というものを全面に出していけたらなと思いますね。

—— サッカーですと横浜にプロチームが2つある。サッカーではいわゆる「ダービーマッチ」という、同じ街にチームが2つあるとサッカー熱が必然的に高くなるという側面があります。それぞれのクラブから見て、ダービーとしてライバルではあるけど、それでも一緒に活動すること・できるこの意味や良さはどのようにお考えですか。

北澤 チームの理念や考え方にもよるとは思うのですが、スポーツチームであれば勝利を目指して、お客さんと呼んで、というところは共通する部分だと思います。その目標に向かっていく中でいろんなやり方がそれぞれあると思うんです。過程はそれぞれバラバラだと思いますが、それを自分のチームだけではなく、サッカーでもそうですし、バスケットボールや野球にも「ああ、こういうやり方があるんだ」と、新しいアイディアであったり、こういうやり方だったらうちのチームでも

2010年 平成22年	横浜スポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」内に、横浜熱闘倶楽部ホームページをリニューアルし各種事業等を掲載
2011年 平成23年	市営地下鉄横浜駅構内デジタルサイネージ(電子掲示板)の運用開始 ③
2012年 平成24年	市営地下鉄「はまりん号」～横浜プロスポーツチーム応援号」を初運行 プロバスケットボールチーム 横浜ビー・コルセアーズ加入 4チーム体制へ
2013年 平成25年	全国ホームタウンサミットinYOKOHAMA開催へ協力 ④ 横浜子どもスポーツ基金活用事業開始 横浜ビー・コルセアーズ bjリーグ2012-2013シーズンプレイオフファイナルズ優勝 ⑤
2014年 平成26年	横浜F・マリノス 第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝 ⑥ 交通局とのタイアップで各チームのラッピングバス運行 ⑦
2015年 平成27年	横浜初の市民参加型フルマラソン「横浜マラソン2015」のEXPOIに出展 ⑧



特集 熱闘倶楽部 20周年

できる、と参考になる部分というのも非常に感じさせていただいているので、そういうところで良い部分を吸収して自分のチームの発展に貢献できるような形でやれば良いな、というのはありますね。



松本 それぞれ種目の違いはあるでしょうし、歴史も当然違う。でもやっぱりそれぞれのチームがやることはおそらく一緒だと思うんです。そこで「横浜だからできるんだ」というのをもっと大切にしたい方がいかな、という感じはしますよね。「お互いに横浜のチームを応援しよう」というのが必要になってくるのではないのでしょうか。

—— 畠山さんはプロ野球選手としてプレーされ、さまざま仕事を経て今の仕事に就かれたわけですが、現役のときに地域貢献活動はどのように思われていましたか。



畠山 申し上げにくいんですけど…、今の選手の方が認識はちゃんとしていますよね。学校訪問やファンサービスとか、いろんな部分で意識するようになってきています。例えば「車椅子寄贈」とか試合に招待したり…、そういうのは今の選手の方が意識してやっていると思います。

—— 地域貢献活動の中でも、学校訪問などで現役のプロ選手が来るというのは非常に貴重な経験だと思います。プロスポーツチームなので試合に向けての選手のコンディション調整が大切な部分としてあると思いますが、そのあたりのバランスを取りながら、今後の展望も含めて現役のプロ選手と地域貢献活動をどのように絡めていけるでしょうか。

小川 ビーコルはまだ歴史が浅いので、時間が許す限り出かけて行って子どもたちとふれあうのが一番なのかなと思います。小学生、中学生くらいの子も子どもたちが本物のプロ選手…自分たちと全然違う世界の人たちとふれあえる機会を、時間が許す限りどんどん取り組んでいきたいですね。



夢で逢えたら

「横浜熱闘倶楽部があつてよかったね」と言われるように

—— 横浜FCの活動では「夢で逢えたら」は、三浦知良選手がもともとヴィッセル神戸で始められたものを横浜FCでも継続する形で、チームメイトとともに活動されています。

北澤 学校訪問に関しては、現役選手が行くのはインパクトがありますし、子どもたちが持つ印象は、大人になっても覚えていたりするものです。もちろんチームスタッフだけによる活動も最大限やっていくんですが、その温め方ですね。選手が行くときまでにどれくらい温められるか、インパクトを与えられるか、というのを考えながら取り組んでいます。回数についても極力多く選手を稼働できるようにして、もちろんベテラン選手と新人選手とで活動の回数は変わってきますけど、新人選手に関してベテラン選手と一緒にして、ベテラン

選手の姿を見ながら勉強してもらったりしています。一緒に遊んだ子どもたちが次、スタジアムに来てくれるようなイメージをしながら活動をするのと、ただの1日で終わってしまうのは大きな差がありますから、そこはチームとして考えながらやっています。

—— 方々からの要望で現役選手に活動していただく中で、試合日程や選手のコンディションなど、調整にかかるご苦労も多いと思います。

松本 クラブが主導してやっていくのは当然なんですけど、本人たちがそういう意識がないと基本はダメだと思います。F・マリノスの場合はベテラン選手が自分からそういうことをやるようになってきているんです。若い選手は自分からなかなか進んでできないものですから。ただまあプロ選手なので、やっぱり本来の仕事をきちっとやった中でどう取り組むかということ、その辺のわかまえ方は気をつけています。

畠山 今だと三浦大輔(投手)っていういいお手本がいて、小学校訪問授業「星に願いを」では当日試合で先発登板する日でも行くんです。今日先発なのに昼間学校へ行って、子どもたちに「今日投げるから応援に来てね」と。若い選手も(その姿を)ずっと見ているので、いいお手本になっています。本来なら球場でコンディションを整えて試合に臨むところだけど、子どもたちのために、という部分を今の選手が少しでもやってくれるのがありがたいですね。子どもたちの目の輝きが違いますから。

—— 現役選手が地域貢献に果たす役割は非常に大事だと思います。私たちとしても現役の選手にいろいろとお願い事をするのは、なかなか心苦しいところがある中で、それでも出ていただいたりしていることにとっても感謝しております。コンディション調整やチーム事情もあると思いますが、事情が許される範囲の中で引き続きご協力いただけると非常にありがたいと思っています。

では最後に、これからの横浜熱闘倶楽部に期待すること、望むことをお願いします。



ICI 石井スポーツ 横浜店

石井スポーツは創業51年の山とスキーの専門店です。初心者さんからベテランさんまで、しっかりサポートいたします。

- ◆ 毎月登山学校を開催(講師・下越田岡ガイド。机上と実技)
- ◆ 毎月ノルディックウォーキング講習を開催(店舗に講師が常駐。レンタルポールあり)
- ◆ 通年スキー用品の取り扱い。修理・加工・チューンナップを受付中。

〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通7番地 日本大通7ビル1F

営業時間 平日 10:30~20:00 日祝 10:30~19:00 定休日 不定休

TEL:045-651-3681 FAX:045-651-3682 E-mail:yokohama@ici-sports.com



富山 4チームが同じ方向を向いてできるイベントがもっとできれば楽しいのかなと思います。4チームが集まってひとつのイベントをする。野球の好きなファンもいれば、サッカーのファンもバスケのファンもみんなが集まってくるようなイベントができれば面白いですね。

松本 長年続くとマンネリ化するし、ちょっとずつ見直して変えていくことが必要だと思います。市民の声を聞いた中で、何を期待して何を望まれているのかでやり方は変わってくると思いますので、継続してやっていただきたいなと思います。



門脇 4チームが集まって、同じビジョンがあって、そういう仲間がいるというのは幸せなことですし、未来の子どもたちにスポーツを通じての教育の中で「横浜熱闘倶楽部があってよかったね」と言われるような活動をしていきたいなと思います。

北澤 市民性ってあると思うんです。他の地域と違うやり方でこの街にいる人たちを巻き込むやり方をうまく市民の声を拾いながら反映し、ダメなところを反省し、また次をやって繰り返していくことでいいものができていくし、この先の20年後は横浜市民がみんな熱闘倶楽部を知っているというような状況になればうれしいですね。

小川 4チームを支えるひとつの組織にわざわざ横浜市長が会長になっていただいて、そういうのが横浜のブランド力になっていると思いますし、もっともっとそういった部分を出していけば横浜という名前も当然出てくる。18区の人たち370~380万人の人たちが少しずつそれを理解し、横浜市民も我々と一緒に何をするのか、の部分がかっと

明確になって、それが同じベクトルになって進めば、もっと幅が広がっていくのかなと思います。

—ありがとうございます。各チームの歴史の中に横浜市民が誇りを持って応援できるベースを作っていきたいと思っておりますので、引き続きご支援ご協力をよろしくお願いたします。



開催日:平成27年11月19日

熱闘グッズコレクション

20年にわたる活動の中では、オリジナルグッズも多数作成してきました。これまで作成してきたオリジナルグッズの中から、ほんの一部をご紹介します。懐かしいグッズもあるかも!



ブランケット



巾着袋



Tシャツ
(横浜熱闘V3デーの賞品)



ワッペン



クリアファイル



下敷き



マウスパッド

横浜熱闘倶楽部の活動に関するアンケートにご協力ください

横浜熱闘倶楽部では、今後の活動のためのアンケートを実施しています。ご回答いただいた方には横浜熱闘倶楽部オリジナル壁紙(PC・スマホ)をプレゼントします。詳しくは横浜熱闘倶楽部ホームページをご覧ください。

URL <http://www.hamaspo.com/nettouclub/>

コカ・コーライーストジャパン株式会社
 COCA-COLA EAST JAPAN CO., LTD. コカ・コーラ株式会社
<http://www.ccej.co.jp>
 Coca-Cola is The Coca-Cola Company の登録商標です。